

＜畜産学科＞（認定課程：高一種免（理科））

（１）各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	化学と生物学や語学を中心に動物生命科学、生産科学を学ぶための基礎を培うとともに、社会科学・牧場の実習を通じて産業が直面する幅広い諸問題に向かい合える広い教養を身に付ける。教職についての理解を深め、教員としての適性を確認する。
	後期	動物生命科学および生産科学について学ぶための実験手法を身に付けるとともに、実験結果をディスカッションし、報告するためのスキルを身に付ける。
2年次	前期	動物生命科学および生産科学を学ぶための語学能力の向上と、専門分野を学ぶため生殖、育種、生理、飼養、衛生、畜産物利用及びマネジメントの基本科目を学ぶ。また現代社会の諸問題や倫理学などを学び広い教養を身に付ける。教職の基礎を理解し、将来の進路について考える。
	後期	動物生命科学および生産科学を学ぶための語学能力の向上と、専門分野を学ぶため生殖、育種、生理、飼養、衛生、畜産物利用及びマネジメントの基本科目を学ぶ。また現代社会の諸問題や倫理学などを学び広い教養を身に付ける。教職の基礎を理解し、将来の進路について考える。
3年次	前期	動物生命科学や生産科学に関する職業について関心を高め、将来の進路を考える。専攻研究室に所属しさらに生命科学、生産科学の諸問題に対して深く考察し検討する手法を身に付けるための実習、専門科目に取り組む。引き続き高等学校理科教員として必要な指導法を習得するとともに、教育実習に臨むための態度を確立する。
	後期	専攻研究室に所属し卒業研究のテーマを決め、これに取り組む。動物生命科学や生産科学に関連した職業についてインターンシップを通じて理解を深める。引き続き高等学校理科教員として必要な指導法を習得するとともに、教育実習に臨むための態度を確立する。
4年次	前期	専攻研究室に所属し卒業研究に取り組む。教育実習をすることで、大学で学んだ知識・技術を確認するとともに、教員の仕事について理解を深め、自らの資質を確認する。
	後期	動物の生命科学や生産科学の理解を通じて、理科の専門家とし諸問題に対する解決力がどれだけ身に付いたのか確認し、それを社会でどう生かすのか考える。高等学校理科教員として必要な資質能力がどれだけ形成されたか振り返る。